

# 古文ドリル：「和歌の総合（句切れ・修辞・文学史）」100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関大） | 著作権：誰でも古典塾  
(kotennosensei.com) 無断転載禁止

## はじめに：和歌をまるごと総点検

和歌（短歌）は五・七・五・七・七の三十一音。このドリルでは、句切れ・修辞法（枕詞・序詞・掛詞・縁語ほか）・文学史（万葉/古今/新古今）・形式・作者を四択で総ざらいします。

分野	問われ方
句切れ	一首のどこで意味が切れるか／その目印
修辞法	枕詞・序詞・掛詞・縁語・体言止めなどの識別
文学史	三大歌集の時代・撰者・特徴、六歌仙
形式・作者	音数・句の名称・有名歌の作者

## 🎯 解き方のコツ

- 句切れの目印＝終止形・命令形・係り結びの結び・詠嘆の終助詞（な・かな・けり等）。末尾が「つつ・らむ」や係り結びの結びなら句切れなしになりやすい。
- 枕詞は五音で訳さない／序詞は長めで訳す／掛詞は同音二義。
- 万葉＝素朴・五七調、古今＝優美・七五調、新古今＝技巧・本歌取り。

## 採点表

部	問題	目標
第1部	Q1～Q25	19/25
第2部	Q26～Q50	19/25
第3部	Q51～Q75	19/25
第4部	Q76～Q100	18/25

句切れ Q1. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

春過ぎて／夏来にけらし／白妙の／衣ほすてふ／天の香具山

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「けらし」が終止形（過去推量「らし」）で、文がいったん終わるから。（持統天皇）

句切れ Q2. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

花の色は／移りにけりな／いたづらに／わが身世にふる／ながめせし間に

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「な」が詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから。（小野小町）

句切れ Q3. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

ちはやぶる／神代も聞かず／竜田川／からくれなゐに／水くくるとは

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「聞かず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから。（在原業平）

句切れ Q4. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

人はいさ／心も知らず／ふるさとは／花ぞ昔の／香ににほひける

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「知らず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから。（紀貫之）

句切れ Q5. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

世の中は／常にもがもな／渚漕ぐ／海人の小舟の／綱手かなしも

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：

イ 二句切れ。第二句末「もがもな」が願望+詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから。（鎌倉右大臣）

句切れ Q6. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

心あてに／折らばや折らむ／初霜の／置きまどはせる／白菊の花

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「折らむ」が終止形（推量「む」）で、文がいったん終わるから。（凡河内躬恒）

句切れ Q7. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

東風吹かば／にほひおこせよ／梅の花／主なしとて／春な忘れそ

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「おこせよ」が命令形で、そこで言い切るから。（菅原道真）

句切れ Q8. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

忍ぶれど／色に出でにけり／わが恋は／物や思ふと／人の問ふまで

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「にけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、文がいったん終わるから。（平兼盛）

句切れ Q9. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

めぐり逢ひて／見しやそれとも／わかぬ間に／雲隠れにし／夜半の月かな

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「見しや」の「や」が疑問の係助詞で、そこで切れるから。（紫式部）

句切れ Q10. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

月見れば／千々に物こそ／悲しけれ／わが身一つの／秋にはあらねど

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：ウ 三句切れ。第三句末「悲しけれ」が係助詞「こそ」の結び（已然形）で、そこで切れるから。（大江千里）

句切れ Q11. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

見渡せば／花も紅葉も／なかりけり／浦の苫屋の／秋の夕暮れ

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：ウ 三句切れ。第三句末「なかりけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、そこで切れるから。（藤原定家）

句切れ Q12. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

我が庵は／都のたつみ／しかぞ住む／世をうち山と／人はいふなり

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：ウ 三句切れ。第三句末「しかぞ住む」が係助詞「ぞ」の結び（連体形）で、そこで切れるから。（喜撰法師）

句切れ Q13. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

嘆けとて／月やは物を／思はする／かこち顔なる／わが涙かな

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：ウ 三句切れ。第三句末「思はする」が係助詞「やは」（反語）の結び（連体形）で、そこで切れるから。（西行法師）

句切れ Q14. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

秋の田の／かりほの庵の／苦をあらみ／わが衣手は／露にぬれつつ

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：オ 句切れなし。末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから。（天智天皇）

句切れ Q15. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

田子の浦に／うち出でて見れば／白妙の／富士の高嶺に／雪は降りつつ

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：オ 句切れなし。末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから。(山部赤人)

句切れ Q16. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

奥山に／紅葉踏み分け／鳴く鹿の／声聞く時ぞ／秋は悲しき

ア 初句切れ (第一句で切れる)

イ 二句切れ (第二句で切れる)

ウ 三句切れ (第三句で切れる)

エ 四句切れ (第四句で切れる)

オ 句切れなし (途中で切れない)

▶ 答え：オ 句切れなし。係助詞「ぞ」の結び「悲しき」が末尾にあり、途中で切れないから。(猿丸大夫)

句切れ Q17. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

あしびきの／山鳥の尾の／しだり尾の／ながながし夜を／ひとりかも寝む

ア 初句切れ (第一句で切れる)

イ 二句切れ (第二句で切れる)

ウ 三句切れ (第三句で切れる)

エ 四句切れ (第四句で切れる)

オ 句切れなし (途中で切れない)

▶ 答え：オ 句切れなし。末尾の「かも寝む」まで一続きで、途中で言い切る所がないから。(柿本人麻呂)

句切れ Q18. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

天の原／ふりさけ見れば／春日なる／三笠の山に／出でし月かも

ア 初句切れ (第一句で切れる)

イ 二句切れ (第二句で切れる)

ウ 三句切れ (第三句で切れる)

エ 四句切れ (第四句で切れる)

オ 句切れなし (途中で切れない)

▶ 答え：オ 句切れなし。末尾が詠嘆の「かも」で、途中で言い切る所がないから。(安倍仲麿)

句切れ Q19. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

白露に／風の吹きしく／秋の野は／つらぬきとめぬ／玉ぞ散りける

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：オ 句切れなし。係助詞「ぞ」の結び「散りける」が末尾にあり、途中で切れないから。（文屋朝康）

句切れ Q20. 次の和歌の句切れを、ア～オから選べ。

夏の夜は／まだ宵ながら／明けぬるを／雲のいづこに／月宿るらむ

ア 初句切れ（第一句で切れる）

イ 二句切れ（第二句で切れる）

ウ 三句切れ（第三句で切れる）

エ 四句切れ（第四句で切れる）

オ 句切れなし（途中で切れない）

▶ 答え：オ 句切れなし。末尾が推量の「らむ」で、途中に言い切る所がないから。（清原深養父）

見分け Q21. 次の和歌が「二句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選べ。

春過ぎて／夏来にけらし／白妙の／衣ほすてふ／天の香具山

ア 第二句末「けらし」が終止形（過去推量「らし」）で、文がいったん終わるから

イ 第二句末「にけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、文がいったん終わるから

ウ 末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから

エ 第二句末「な」が詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから

▶ 答え：ア 二句切れ。第二句末「けらし」が終止形（過去推量「らし」）で、文がいったん終わるから。（持統天皇）

見分け Q22. 次の和歌が「二句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選び。

ちはやぶる／神代も聞かず／竜田川／からくれなゐに／水くくるとは

ア 第三句末「悲しけれ」が係助詞「こそ」の結び（已然形）で、そこで切れるから

イ 第二句末「聞かず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから

ウ 末尾の「かも寝む」まで一続きで、途中で言い切る所がないから

エ 第二句末「知らず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから

▶ 答え：イ 二句切れ。第二句末「聞かず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから。（在原業平）

見分け Q23. 次の和歌が「二句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選び。

世の中は／常にもがもな／渚漕ぐ／海人の小舟の／綱手かなしも

ア 第三句末「しかぞ住む」が係助詞「ぞ」の結び（連体形）で、そこで切れるから

イ 係助詞「ぞ」の結び「散りける」が末尾にあり、途中で切れないから

ウ 第二句末「もがもな」が願望＋詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから

エ 第二句末「折らむ」が終止形（推量「む」）で、文がいったん終わるから

▶ 答え：

ウ 二句切れ。第二句末「もがもな」が願望＋詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから。（鎌倉右大臣）

見分け Q24. 次の和歌が「二句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選び。

東風吹かば／にほひおこせよ／梅の花／主なしとて／春な忘れそ

ア 末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから

イ 第二句末「けらし」が終止形（過去推量「らし」）で、文がいったん終わるから

ウ 第二句末「にけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、文がいったん終わるから

エ 第二句末「おこせよ」が命令形で、そこで言い切るから

▶ 答え：エ 二句切れ。第二句末「おこせよ」が命令形で、そこで言い切るから。（菅原道真）

見分け Q25. 次の和歌が「二句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選び。

めぐり逢ひて／見しやそれとも／わかぬ間に／雲隠れにし／夜半の月かな

ア 第二句末「見しや」の「や」が疑問の係助詞で、そこで切れるから

イ 係助詞「ぞ」の結び「悲しき」が末尾にあり、途中で切れないから

ウ 第二句末「聞かず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから

エ 第三句末「悲しけれ」が係助詞「こそ」の結び（已然形）で、そこで切れるから

▶ 答え：ア 二句切れ。第二句末「見しや」の「や」が疑問の係助詞で、そこで切れるから。（紫式部）

見分け Q26. 次の和歌が「三句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選び。

見渡せば／花も紅葉も／なかりけり／浦の苫屋の／秋の夕暮れ

ア 末尾が詠嘆の「かも」で、途中で言い切る所がないから

イ 第三句末「なかりけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、そこで切れるから

ウ 第二句末「もがもな」が願望＋詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから

エ 第三句末「しかぞ住む」が係助詞「ぞ」の結び（連体形）で、そこで切れるから

▶ 答え：イ 三句切れ。第三句末「なかりけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、そこで切れるから。（藤原定家）

見分け Q27. 次の和歌が「三句切れ」とわかる理由として最も適切なものを選び。

嘆けとて／月やは物を／思はする／かこち顔なる／わが涙かな

ア 末尾が推量の「らむ」で、途中で言い切る所がないから

イ 第二句末「おこせよ」が命令形で、そこで言い切るから

ウ 第三句末「思はする」が係助詞「やは」（反語）の結び（連体形）で、そこで切れるから

エ 末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから

▶ 答え：ウ 三句切れ。第三句末「思はする」が係助詞「やは」（反語）の結び（連体形）で、そこで切れるから。（西行法師）

見分け Q28. 次の和歌が「句切れなし」とわかる理由として最も適切なものを選び。

田子の浦に／うち出でて見れば／白妙の／富士の高嶺に／雪は降りつつ

ア 第二句末「な」が詠嘆の終助詞で、そこで言い切るから

イ 第二句末「見しや」の「や」が疑問の係助詞で、そこで切れるから

ウ 係助詞「ぞ」の結び「悲しき」が末尾にあり、途中で切れないから

エ 末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから

▶ 答え：エ 句切れなし。末尾が継続の「つつ」で、途中で言い切る所がないから。(山部赤人)

見分け Q29. 次の和歌が「句切れなし」とわかる理由として最も適切なものを選び。  
あしびきの／山鳥の尾の／しだり尾の／ながながし夜を／ひとりかも寝む

ア 末尾の「かも寝む」まで一続きで、途中で言い切る所がないから

イ 第二句末「知らず」が終止形（打消「ず」）で、文がいったん終わるから

ウ 第三句末「なかりけり」が終止形（詠嘆「けり」）で、そこで切れるから

エ 末尾が詠嘆の「かも」で、途中で言い切る所がないから

▶ 答え：ア 句切れなし。末尾の「かも寝む」まで一続きで、途中で言い切る所がないから。(柿本人麻呂)

見分け Q30. 次の和歌が「句切れなし」とわかる理由として最も適切なものを選び。  
白露に／風の吹きしく／秋の野は／つらぬきとめぬ／玉ぞ散りける

ア 第二句末「折らむ」が終止形（推量「む」）で、文がいったん終わるから

イ 係助詞「ぞ」の結び「散りける」が末尾にあり、途中で切れないから

ウ 第三句末「思はする」が係助詞「やは」（反語）の結び（連体形）で、そこで切れるから

エ 末尾が推量の「らむ」で、途中で言い切る所がないから

▶ 答え：イ 句切れなし。係助詞「ぞ」の結び「散りける」が末尾にあり、途中で切れないから。(文屋朝康)

作者 Q31. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。  
花の色は／移りにけりな／いたづらに／わが身世にふる／ながめせし間に

ア 菅原道真

イ 喜撰法師

ウ 小野小町

エ 柿本人麻呂

▶ 答え：ウ 作者は小野小町。二句切れ。

作者 Q32. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。  
人はいさ／心も知らず／ふるさとは／花ぞ昔の／香ににほひける

ア 紫式部

イ 天智天皇

ウ 文屋朝康

エ 紀貫之

▶ 答え：エ 作者は紀貫之。二句切れ。

作者 Q33. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。

心あてに／折らばや折らむ／初霜の／置きまどはせる／白菊の花

ア 凡河内躬恒

イ 藤原定家

ウ 猿丸大夫

エ 持統天皇

▶ 答え：ア 作者は凡河内躬恒。二句切れ。

作者 Q34. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。

忍ぶれど／色に出でにけり／わが恋は／物や思ふと／人の問ふまで

ア 西行法師

イ 平兼盛

ウ 安倍仲磨

エ 在原業平

▶ 答え：イ 作者は平兼盛。二句切れ。

作者 Q35. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。

月見れば／千々に物こそ／悲しけれ／わが身一つの／秋にはあらねど

ア 山部赤人

イ 清原深養父

ウ 大江千里

エ 鎌倉右大臣

▶ 答え：ウ 作者は大江千里。三句切れ。

作者 Q36. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。

我が庵は／都のたつみ／しかぞ住む／世をうち山と／人はいふなり

ア 柿本人麻呂

イ 小野小町

ウ 菅原道真

エ 喜撰法師

▶ 答え：エ 作者は喜撰法師。三句切れ。

作者 Q37. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。

秋の田の／かりほの庵の／苦をあらみ／わが衣手は／露にぬれつつ

ア 天智天皇

イ 文屋朝康

ウ 紀貫之

エ 紫式部

▶ 答え：ア 作者は天智天皇。句切れなし。

作者 Q38. 次の和歌の作者を、ア～エから選べ。

奥山に／紅葉踏み分け／鳴く鹿の／声聞く時ぞ／秋は悲しき

ア 持統天皇

イ 猿丸大夫

ウ 凡河内躬恒

エ 藤原定家

▶ 答え：イ 作者は猿丸大夫。句切れなし。

修辞 Q39. 和歌の修辞法「枕詞」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア ある語を導くために置く、比較的長い（七音以上）前置きの言葉。ふつう訳す

イ 一つの語に、同音の二つの意味を持たせる技法

ウ 特定の語を導く、ふつう五音の修飾語。それ自体は訳さないことが多い

エ 一首の中に、意味の上で関連する語を意図的に散りばめる技法

▶ 答え：ウ 「枕詞」＝特定の語を導く、ふつう五音の修飾語。それ自体は訳さないことが多い。

**修辞** Q40. 和歌の修辞法「序詞」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 一つの語に、同音の二つの意味を持たせる技法

イ 一首の中に、意味の上で関連する語を意図的に散りばめる技法

ウ 句の終わり（特に結句）を体言（名詞）で止め、余韻を残す技法

エ ある語を導くために置く、比較的長い（七音以上）前置きの言葉。ふつう訳す

▶ 答え：エ 「序詞」＝ある語を導くために置く、比較的長い（七音以上）前置きの言葉。ふつう訳す。

**修辞** Q41. 和歌の修辞法「掛詞」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 一つの語に、同音の二つの意味を持たせる技法

イ 一首の中に、意味の上で関連する語を意図的に散りばめる技法

ウ 句の終わり（特に結句）を体言（名詞）で止め、余韻を残す技法

エ 言葉の順序を入れかえて、強調や余情を生む技法

▶ 答え：ア 「掛詞」＝一つの語に、同音の二つの意味を持たせる技法。

**修辞** Q42. 和歌の修辞法「縁語」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 句の終わり（特に結句）を体言（名詞）で止め、余韻を残す技法

イ 一首の中に、意味の上で関連する語を意図的に散りばめる技法

ウ 言葉の順序を入れかえて、強調や余情を生む技法

エ 有名な古歌の語句や趣向を取り入れて新しい歌を作る技法

▶ 答え：イ 「縁語」＝一首の中に、意味の上で関連する語を意図的に散りばめる技法。

**修辞** Q43. 和歌の修辞法「体言止め」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 言葉の順序を入れかえて、強調や余情を生む技法

イ 有名な古歌の語句や趣向を取り入れて新しい歌を作る技法

ウ 句の終わり（特に結句）を体言（名詞）で止め、余韻を残す技法

エ 各句の頭に、物の名などを一字ずつ詠み込む技法

▶ 答え：ウ 「体言止め」＝句の終わり（特に結句）を体言（名詞）で止め、余韻を残す技法。

修辞 Q44. 和歌の修辞法「倒置法」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 有名な古歌の語句や趣向を取り入れて新しい歌を作る技法

イ 各句の頭に、物の名などを一字ずつ詠み込む技法

ウ 特定の語を導く、ふつう五音の修飾語。それ自体は訳さないことが多い

エ 言葉の順序を入れかえて、強調や余情を生む技法

▶ 答え：エ 「倒置法」＝言葉の順序を入れかえて、強調や余情を生む技法。

修辞 Q45. 和歌の修辞法「本歌取り」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 有名な古歌の語句や趣向を取り入れて新しい歌を作る技法

イ 各句の頭に、物の名などを一字ずつ詠み込む技法

ウ 特定の語を導く、ふつう五音の修飾語。それ自体は訳さないことが多い

エ ある語を導くために置く、比較的長い（七音以上）前置きの言葉。ふつう訳す

▶ 答え：ア 「本歌取り」＝有名な古歌の語句や趣向を取り入れて新しい歌を作る技法。

修辞 Q46. 和歌の修辞法「折句」の説明として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 特定の語を導く、ふつう五音の修飾語。それ自体は訳さないことが多い

イ 各句の頭に、物の名などを一字ずつ詠み込む技法

ウ ある語を導くために置く、比較的長い（七音以上）前置きの言葉。ふつう訳す

エ 一つの語に、同音の二つの意味を持たせる技法

▶ 答え：イ 「折句」＝各句の頭に、物の名などを一字ずつ詠み込む技法。

修辞 Q47. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「特定の語を導く、ふつう五音の修飾語。それ自体は訳さないことが多い」

ア 序詞

イ 掛詞

ウ 枕詞

エ 縁語

▶ 答え：ウ これは「枕詞」。

修辞 Q48. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「ある語を導くために置く、比較的長い（七音以上）前置きの言葉。ふつう訳す」

ア 掛詞

イ 縁語

ウ 体言止め

エ 序詞

▶ 答え：エ これは「序詞」。

修辞 Q49. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「一つの語に、同音の二つの意味を持たせる技法」

ア 掛詞

イ 縁語

ウ 体言止め

エ 倒置法

▶ 答え：ア これは「掛詞」。

修辞 Q50. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「一首の中に、意味の上で関連する語を意図的に散りばめる技法」

ア 体言止め

イ 縁語

ウ 倒置法

エ 本歌取り

▶ 答え：イ これは「縁語」。

**修辞** Q51. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「句の終わり（特に結句）を体言（名詞）で止め、余韻を残す技法」

ア 倒置法

イ 本歌取り

ウ 体言止め

エ 折句

▶ 答え：ウ これは「体言止め」。

**修辞** Q52. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「言葉の順序を入れかえて、強調や余情を生む技法」

ア 本歌取り

イ 折句

ウ 枕詞

エ 倒置法

▶ 答え：エ これは「倒置法」。

**修辞** Q53. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「有名な古歌の語句や趣向を取り入れて新しい歌を作る技法」

ア 本歌取り

イ 折句

ウ 枕詞

エ 序詞

▶ 答え：ア これは「本歌取り」。

**修辞** Q54. 次の説明にあてはまる修辞法を、ア～エから選べ。

「各句の頭に、物の名などを一字ずつ詠み込む技法」

ア 枕詞

イ 折句

ウ 序詞

エ 掛詞

▶ 答え：イ これは「折句」。

枕詞 Q55. 枕詞「ひさかたの」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 山・峰

イ 母・親

ウ 光・天・月・空

エ 夜・黒・闇

▶ 答え：ウ 「ひさかたの」は光・天・月・空にかかる枕詞。

枕詞 Q56. 枕詞「あしびきの」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 母・親

イ 夜・黒・闇

ウ 神・宇治

エ 山・峰

▶ 答え：エ 「あしびきの」は山・峰にかかる枕詞。

枕詞 Q57. 枕詞「たらちねの」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 母・親

イ 夜・黒・闇

ウ 神・宇治

エ 奈良

▶ 答え：ア 「たらちねの」は母・親にかかる枕詞。

枕詞 Q58. 枕詞「ぬばたまの」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 神・宇治

イ 夜・黒・闇

ウ 奈良

エ 旅

▶ 答え：イ 「ぬばたまの」は夜・黒・闇にかかる枕詞。

枕詞 Q59. 枕詞「ちはやぶる」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 奈良

イ 旅

ウ 神・宇治

エ 衣・袖・雪

▶ 答え：ウ 「ちはやぶる」は神・宇治にかかる枕詞。

枕詞 Q60. 枕詞「あをによし」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 旅

イ 衣・袖・雪

ウ 年・月・春

エ 奈良

▶ 答え：エ 「あをによし」は奈良にかかる枕詞。

枕詞 Q61. 枕詞「くさまくら」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 旅

イ 衣・袖・雪

ウ 年・月・春

エ 着る・裾・袖

▶ 答え：ア 「くさまくら」は旅にかかる枕詞。

枕詞 Q62. 枕詞「しろたへの」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 年・月・春

イ 衣・袖・雪

ウ 着る・裾・袖

エ 光・天・月・空

▶ 答え：イ 「しろたへの」は衣・袖・雪にかかる枕詞。

枕詞 Q63. 枕詞「あらたまの」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 着る・裾・袖

イ 光・天・月・空

ウ 年・月・春

エ 山・峰

▶ 答え：ウ 「あらたまの」は年・月・春にかかる枕詞。

枕詞 Q64. 枕詞「からころも」が導く語として正しいものを、ア～エから選べ。

ア 光・天・月・空

イ 山・峰

ウ 母・親

エ 着る・裾・袖

▶ 答え：エ 「からころも」は着る・裾・袖にかかる枕詞。

掛詞 Q65. 和歌で「まつ」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「松」と「待つ」

イ 「秋」と「飽き」

ウ 「長雨」と「眺め」

エ 「憂き」と「浮き」

▶ 答え：ア 「まつ」は「松」と「待つ」の掛詞。

掛詞 Q66. 和歌で「あき」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「長雨」と「眺め」

イ 「秋」と「飽き」

ウ 「憂き」と「浮き」

エ 「降る」と「経る（古る）」

▶ 答え：イ 「あき」は「秋」と「飽き」の掛詞。

掛詞 Q67. 和歌で「ながめ」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「憂き」と「浮き」

イ 「降る」と「経る（古る）」

ウ 「長雨」と「眺め」

エ 「夜」と「世」

▶ 答え：ウ 「ながめ」は「長雨」と「眺め」の掛詞。

掛詞 Q68. 和歌で「うき」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「降る」と「経る（古る）」

イ 「夜」と「世」

ウ 「枯れ」と「離れ」

エ 「憂き」と「浮き」

▶ 答え：エ 「うき」は「憂き」と「浮き」の掛詞。

掛詞 Q69. 和歌で「ふる」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「降る」と「経る（古る）」

イ 「夜」と「世」

ウ 「枯れ」と「離れ」

エ 地名「逢坂」と「逢ふ」

▶ 答え：ア 「ふる」は「降る」と「経る（古る）」の掛詞。

掛詞 Q70. 和歌で「よ」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「枯れ」と「離れ」

イ 「夜」と「世」

ウ 地名「逢坂」と「逢ふ」

エ 「松」と「待つ」

▶ 答え：イ 「よ」は「夜」と「世」の掛詞。

掛詞 Q71. 和歌で「かれ」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 地名「逢坂」と「逢ふ」

イ 「松」と「待つ」

ウ 「枯れ」と「離れ」

エ 「秋」と「飽き」

▶ 答え：ウ 「かれ」は「枯れ」と「離れ」の掛詞。

掛詞 Q72. 和歌で「あふさか」に掛けられることが多い二つの意味を、ア～エから選べ。

ア 「松」と「待つ」

イ 「秋」と「飽き」

ウ 「長雨」と「眺め」

エ 地名「逢坂」と「逢ふ」

▶ 答え：エ 「あふさか」は地名「逢坂」と「逢ふ」の掛詞。

文学史 Q73. 現存する日本最古の歌集はどれか。

ア 万葉集

イ 古今和歌集

ウ 新古今和歌集

エ 拾遺和歌集

▶ 答え：ア 万葉集（奈良時代）。素朴で力強い五七調。

文学史 **Q74.** 最初の勅撰和歌集はどれか。

ア 万葉集

イ 古今和歌集

ウ 新古今和歌集

エ 後撰和歌集

▶ 答え：イ 古今和歌集（平安初期・905年頃）。

文学史 **Q75.** 古今和歌集の中心的な撰者は誰か。

ア 藤原定家

イ 大伴家持

ウ 紀貫之

エ 後鳥羽院

▶ 答え：ウ 紀貫之ら（友則・躬恒・忠岑）。仮名序も貫之。

文学史 **Q76.** 新古今和歌集が成立した時代はいつか。

ア 奈良時代

イ 平安時代初期

ウ 江戸時代

エ 鎌倉時代初期

▶ 答え：エ 鎌倉初期・後鳥羽院の命、藤原定家ら撰。

文学史 **Q77.** 新古今和歌集の特徴として正しいものはどれか。

ア 本歌取り・体言止め・三句切れなど技巧的

イ 万葉仮名で書かれ素朴

ウ 俳諧を集めた

エ 作者不明の歌謡集

▶ 答え：ア 技巧的・幽玄。

文学史 Q78. 「勅撰和歌集」とはどのような歌集か。

ア 個人が私的に編んだ歌集

イ 天皇や上皇の命令で編まれた歌集

ウ 寺院が編んだ経典

エ 中国の詩集

▶ 答え：イ 勅撰=天皇・上皇の下命による。

文学史 Q79. 「三大歌集」に含まれないものはどれか。

ア 万葉集

イ 古今和歌集

ウ 拾遺和歌集

エ 新古今和歌集

▶ 答え：ウ 三大歌集=万葉・古今・新古今。

文学史 Q80. 「八代集」の最初と最後の歌集の組み合わせとして正しいものはどれか。

ア 万葉集～古今和歌集

イ 古今和歌集～千載和歌集

ウ 万葉集～新古今和歌集

エ 古今和歌集～新古今和歌集

▶ 答え：エ 八代集は古今～新古今の八つの勅撰集。

文学史 Q81. 古今和歌集の序文「仮名序」を書いたのは誰か。

ア 紀貫之

イ 紀友則

ウ 凡河内躬恒

エ 壬生忠岑

▶ 答え：ア 仮名序は紀貫之。

文学史 Q82. 「六歌仙」に数えられる歌人はどれか。

ア 藤原定家

イ 在原業平

ウ 紀貫之

エ 山部赤人

▶ 答え：イ 六歌仙=遍昭・業平・文屋康秀・喜撰・小町・黒主。

---

文学史 Q83. 「六歌仙」に数えられる女性歌人は誰か。

ア 紫式部

イ 和泉式部

ウ 小野小町

エ 清少納言

▶ 答え：ウ 六歌仙の女性は小野小町。

---

文学史 Q84. 万葉集の編纂に深く関わったとされる歌人は誰か。

ア 紀貫之

イ 藤原定家

ウ 西行

エ 大伴家持

▶ 答え：エ 大伴家持。

---

文学史 Q85. 「歌聖」と呼ばれ、万葉集を代表する歌人はどれか。

ア 柿本人麻呂

イ 藤原定家

ウ 紀貫之

エ 後鳥羽院

▶ 答え：ア 柿本人麻呂（山部赤人とともに歌聖）。

---

文学史 Q86. 新古今和歌集の編纂を命じた人物は誰か。

ア 醍醐天皇

イ 後鳥羽院

ウ 桓武天皇

エ 後白河院

▶ 答え：イ 後鳥羽院。

文学史 Q87. 万葉集で、漢字の音訓を借りて日本語を表記した文字を何というか。

ア 片仮名

イ 平仮名

ウ 万葉仮名

エ 草仮名

▶ 答え：ウ 万葉仮名。

文学史 Q88. 古今和歌集の歌風（調子）として最も適切なものはどれか。

ア 五七調で素朴・力強い

イ 字余りが多く破調

ウ 俳諧的でこっけい

エ 七五調で優美・理知的

▶ 答え：エ 古今は七五調・優美。

文学史 Q89. 万葉集に多く見られる歌風（調子）はどれか。

ア 五七調で素朴・力強い

イ 七五調で優美

ウ 技巧的で幽玄

エ 風刺的

▶ 答え：ア 万葉は五七調・素朴。

文学史 Q90. 「土佐日記」の作者で、古今集の撰者でもあるのは誰か。

ア 紀友則

イ 紀貫之

ウ 在原業平

エ 清少納言

▶ 答え：イ 紀貫之。

文学史 Q91. 東国の民衆の歌「東歌」や、兵士の歌「防人歌」を収めるのはどの歌集か。

ア 古今和歌集

イ 新古今和歌集

ウ 万葉集

エ 後撰和歌集

▶ 答え：ウ 万葉集。

文学史 Q92. 「三十六歌仙」を選んだとされる人物は誰か。

ア 紀貫之

イ 藤原定家

ウ 後鳥羽院

エ 藤原公任

▶ 答え：エ 藤原公任の『三十六人撰』による。

文学史 Q93. 和歌の修辞「本歌取り」を特に多用した歌集はどれか。

ア 新古今和歌集

イ 万葉集

ウ 古今和歌集

エ 後撰和歌集

▶ 答え：ア 新古今で多用。

文学史 **Q94.** 古今和歌集が成立したおおよその時代はどれか。

ア 奈良時代

イ 平安時代初期

ウ 鎌倉時代

エ 室町時代

▶ 答え：イ 平安初期（醍醐天皇の頃）。

形式 **Q95.** 短歌の音数として正しいものはどれか。

ア 五・七・五の十七音

イ 五・七・七・五・七・七

ウ 五・七・五・七・七の三十一音

エ 七・七・七・五

▶ 答え：ウ 短歌=三十一音。

形式 **Q96.** 和歌の五句を順に何と呼ぶか。

ア 起句・承句・転句・結句・余句

イ 首・額・頸・尾・余

ウ 上・中・下・左・右

エ 初句・二句・三句・四句・結句

▶ 答え：エ 初句～結句。

形式 **Q97.** 和歌の「上句（かみのく）」が指すのはどこか。

ア 初句・二句・三句（五七五）

イ 四句・結句（七七）

ウ 初句だけ

エ 結句だけ

▶ 答え：ア 上句=五七五。

形式 Q98. 和歌の「下句（しものく）」が指すのはどこか。

ア 初句・二句・三句（五七五）

イ 四句・結句（七七）

ウ 結句だけ

エ 初句だけ

▶ 答え：イ 下句=七七。

形式 Q99. 「長歌」の形式として正しいものはどれか。

ア 五・七・五・七・七の一首

イ 五・七・七・五・七・七

ウ 五・七を繰り返し、最後を七・七で結ぶ

エ 五・七・五の十七音

▶ 答え：ウ 長歌=五七の繰り返し+結びの七七。

形式 Q100. 「旋頭歌（せどうか）」の音数として正しいものはどれか。

ア 五・七・五・七・七

イ 五・七・五

ウ 七・七・七・五

エ 五・七・七・五・七・七

▶ 答え：エ 旋頭歌=片歌を二つ重ねた形。